

第 2 回 2018 年 5 月 15 日 (火)

第 2 回一流塾では、講師に木村皓一氏 ((株)ミキハウス 代表取締役社長) と、木村政雄氏 (フリープロデューサー) を、懇親会の特別ゲストには室瀬和美氏 (漆芸家、重要無形文化財「蒔絵」保持者(人間国宝)) をお迎えしました。

第 1 部では、木村皓一氏が『誇りの持てる企業文化を』と題して講義を行いました。冒頭で、創業時に商品サンプルを持って地域一番店を回り、断られ続ける中でもビジョンや信念を曲げず、顧客を獲得していった苦労話をご披露いただきました。また、様々なスポーツや従業員のチャレンジなどの支援活動をご紹介いただくとともに、広告宣伝や海外展開、採用などあらゆる局面での先を見通した決断とその背景となる思想について、映像を交えて、分かり易くご説明いただきました。そして、経営者は、データのみには頼るのではなく、先を読む感性を磨き、素早く判断して行動することがとても重要だと強調されました。塾生からは、「自社が社会に必要とされているのか、その存在価値をより意識して経営しようという想いを強くした」、「強い信念と決断力、行動力にとっても感銘を受けた」、「木村先生の人間力を大いに感じた。こういうリーダーになりたいと感じた」といった感想が寄せられました。



【講師 木村 皓一氏】

第 2 部では、『個と経営 - 人と組織の賞味期限』と題して木村政雄氏が講義を行いました。吉本興業の「やすしきよし」のマネージャー時代、東京事務所の起ち上げや吉本新喜劇立て直しの時期などの秘話を流れるような語り口でユーモアを交えてお話し頂きました。そして、現在は、「量的拡大」から「質的発展」へと社会のニーズが変化しており、競争相手、求められるマネジメント能力、情報の流れなどあらゆるものが変化しており、これに対応できない者は「賞味期限」が切れてしまうと語られました。人や組織の「賞味期限」を延ばすには、常識を捨てて、リスクを冒して新しいスキルの獲得にチャレンジすることが必要だと数々のタレントや組織を実際にご覧になられた経験からご紹介頂きました。塾生からは、「過去にとらわれず新しいことにチャレンジすること、目線を高く持つことの 2 点をすぐに実践しようと思った」、「価値観・常識にも賞味期限がある、事業の再定義など、多くの気づきがあった」といった声が上がりました。



【講師 木村 政雄氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに木村皓一氏による乾杯の後、特別ゲストの室瀬氏から『日本文化と経済』と題して卓話を頂きました。室瀬氏は、塾生達が普段触れることが少ない伝統工芸のお話を、飯碗や茶碗のお話などを交えて、分かり易く語られました。冒頭、文化とは目に見えないものであるが、うるしは海外で「japan」と称され古くから賞賛されてきたこと、しかし、日本では明治に入ってから文明開化・欧化主義のあおりを受けて存在感が薄れてしまったと話されました。漆を磨く技術はモノづくりに生かされていることを紹介し、モノづくりの文化を発展させるため、伝統工芸の文化を大切に、グローバルな時代の経営者であれば、経済と共に日本文化を語れる存在であってほしいと塾生達を激励されました。

懇親会後には、塾生有志による塾長を囲む放談会が開催され、講義の感想から、艶のある話しまで多様な話題で遅くまで大いに盛り上がりました。



【特別ゲスト 室瀬氏】



【懇親会風景】



【放談会風景】

